

1 水産試験場沿革

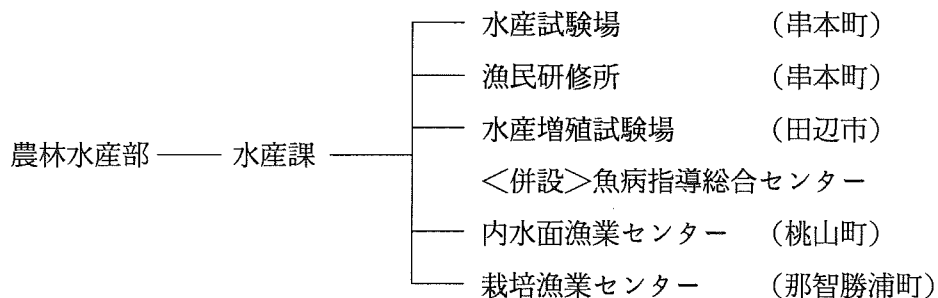
- 明治35年 4月 和歌山県水産試験場開設、県庁内に事務所を置く
- 明治37年 1月 西牟婁郡串本町に庁舎建設し移転
- 大正13年 7月 西牟婁郡田辺町（現 田辺市）へ移転
- 昭和24年 4月 水産試験場は戦後廃止されていたが再発足（田辺市元町2413番地）
- 昭和42年 4月 西牟婁郡串本町の現在地に移転、増殖部は分場として田辺市に残る
- 昭和49年 7月 機構改革により総務課、資源部、開発部に統合

2 所掌事務

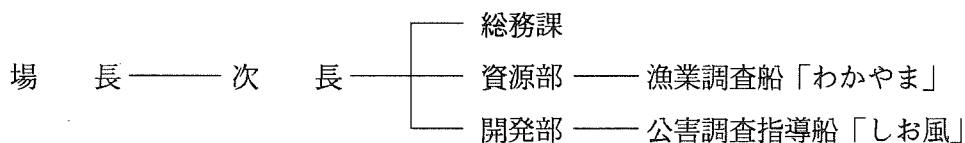
- (1) 水産資源の調査研究に関すること
- (2) 漁海況及び漁場の調査、研究並びに情報提供に関すること
- (3) 水産物の加工利用に関する調査、試験及び研究に関すること
- (4) 水産技術の普及に関すること
- (5) 水産に関する調査、試験、研究及び情報提供に関すること

3 機構と組織

機 構



内部組織



職員の構成

区 分	行政職	研究職	現業職	計	備 考
場 長		1		1	1名研修所本務
次 長	1			1	
総務課	3 (兼1)		1	4	
資源部	4	5	3	12	
開発部		7	1	8	
計	8	13	5	26	

4 職員と分担事務

部 課 名	職 名	氏 名	分 担 事 務
	場 長	蔵 本 豊	場の総括
	次 長	山 本 宏	場長の補佐、課の総括、予算、服務
総 務 課	主 査	清 野 進	給与、共済、互助事務、庁舎管理
	主 査	前 溝 正 夫	歳出事務、物品調達事務
	主 事	井 沼 久 制	歳出事務、旅費事務、公用車の管理
	用 務 員	田 中 千 秋	庁舎内外の環境美化、その他雑務
資 源 部	部 長	阪 本 俊 雄	部の総括、企画調整、漁況海況、資源調査
	主任研究員	渡 辺 勇二郎	漁海況、底魚資源、マグロ漁場調査
	研 究 員	中 地 良 樹	漁海況調査・予報、ブリ類の回遊調査
	研 究 員	武 田 保 幸	漁海況、魚卵・稚子、浮魚資源調査
	研 究 員	樫 山 晃 晴	漁況調査、魚卵・稚子、浮魚資源調査
	船 長	浜 口 英 雄	調査船運航管理等の総括
	機 関 長	岩 本 浪 夫	調査船の機関管理、観測・調査
	航 海 士	東 田 和 行	調査船の運航、観測・調査
	機 関 士	甲 山 忠	調査船の機関操作、通信、観測・調査
	船 員	長谷川 英 幸	甲板業務、観測・調査
	船 員	田 中 徹 郎	甲板業務、観測・調査
船 員	西 博	甲板業務、観測・調査	
開 発 部	部 長	金 盛 浩 吉	部の総括・企画調整、沿整事業関係
	主任研究員	堀 木 信 男	栽培漁業関連技術開発・調査
	主査研究員	竹 内 照 文	赤潮・貝毒関連調査、漁場環境調査・保全
	主査研究員	坂 本 博 規	磯根資源調査、漁場造成技術
	主査研究員	芳 養 晴 雄	赤潮・貝毒関連調査、漁場環境調査・保全
	研 究 員	金 丸 誠 司	磯根資源・漁場造成技術、浮魚礁調査
	研 究 員	小久保 友 義	赤潮・貝毒関連調査、漁場環境調査・保全
	船 員	海老名 要 一	公害調査船「しお風」の運航管理

5 平成3年度事業予算

(千円)

事業名	予算額	摘要
水産試験場運営事業	2,504	
調査船運航	12,425	
漁況海況予報	3,992	国補 1,436
漁業資源調査	3,217	国委 3,217
ブリ種苗放流技術開発	2,060	民委 2,060
沿岸重要漁業資源管理に関する研究	1,028	
本州四国連絡架橋漁業影響調査	1,545	民委 1,545
地域性浮魚資源管理方式開発調査	8,399	国補 8,399
水産生物生態調査	606	国委 606
赤潮調査	2,191	国補 1,095
ギムノディニウム赤潮広域調査	4,073	国委 4,073
貝毒安全対策	950	国委 950
養殖漁場環境保全技術開発試験	2,647	
資源管理型漁業技術開発試験	1,869	
黒潮流域における浮魚礁の実証実験	2,573	
イセエビ増殖技術開発試験	2,897	
海況モニタリングシステム導入	2,837	(3年計画で2基)
人件費	195,107	
小計	250,920	
水産業振興費	7,827	
漁業構造改善費	9,259	
合計	268,006	